

きらめく
まちビト

×

村上恭彦



2021年8月に『日本公開天文台協会 (JAPOS)』の会長に就任したなよろ市立天文台きたすばるの村上台長。JAPOS会長としての今後の展望などについてインタビューしてきました。

天文で名寄を全国にアピールしていきたい。

天文に興味を持った

きつかけは

幼稚園のとき、家の前で親に冬の星空について教えてもらったのが、天文を好きになつた始まりでした。それから星についての本などを買ってもらって読んできました。本格的に天文の活動を始めたのは大学からで、学部の授業で研究をする傍ら、サークルでは中山峠や石狩の厚田で観望をしたり、道内各地で星食(星や惑星が月に隠れる現象)の観測などをしていました。

名寄に来たきつかけは

大学卒業後、北海道の星空に魅了され、働くなら道内の天文台のある街でという気持ちがありました。そんな中、名寄の天文台(当時は木原天文台)は市民が気軽に利用しており、市民とともに歩んでいる天文台に感じたため、ご縁あつて、2001年に名寄市役所に入庁しました。入庁後はきたすばるがオープンするまで、天文台をボランティアでお手伝いしつつ、天文台以外の業務を担当していました。

日本公開天文台協会

(JAPOS)とは

本物の天体を通して自然観

を養い、心豊かな人格形成に

資するための生涯学習支援に

取り組む公開天文台の発展を

目的とする公開天文台の施設

および職員による団体で、主

な活動として天文現象の全国

キャンペーンの実施のほか、

来館者への天文普及のあり方

研修会などを行っています。

きたすばるや天文業界の

今後の展望を教えてください。

さい

コロナの影響で各地の天文台が苦勞している状況なので、各施設で工夫していることや苦勞していることを共有し、少しでもそれぞれの天文台が運営しやすくなればと考えています。

この1年、インターネット中継なども今まで以上に力を入れて行ってきましたが、全国的にはできない天文台もあるため、業界全体で底上げする必要があります。また天文台は動物園や水族館と比べると認知度が低く、1カ所の天文台だけががんばっても注目の広がりには欠けます。天文台、天文業界全体を盛り上げる点からも、将来的に多くの天文台中継などができる

ようになればと思っています。

Profile

村上 恭彦 (むらかみ やすひこ)

1973年(昭和48年)11月生まれ、福島県出身。北海道大学卒業後、2001年に名寄市役所に入庁。2010年4月のきたすばるオープンを機に天文台勤務。2016年からは天文台長を務める。家族は奥さまと中学生のお子さんが1人。趣味は読書で、評論からマンガまでとにかく読む。

いろいろな天文台中継ができれば、例えば天文台が曇りで観望できなくても、他の晴れている天文台の中継映像を利用しながら解説するなど、お客様の満足に少しでもつながるのであると思っています。

市民の皆さまにひとこと

名寄は天体観測に優れている地域です。特に、地元にいると気づきにくいのですが町の中心部から車で15分で、観測に適し、これだけ星が見える天文台というのはそうそうありません。この機会にぜひ気軽に遊びに来ていただき、いっしょに星や宇宙の面白さを味わいませんか。

きらめくまちビト…名寄市内で活躍する市民などの紹介を通して、地域の魅力を発信します。